

令和6年度 KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会 自己点検評価

目的

本委員会の目的は、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AI 教育を全学的に普及させ、1 名でも多くの学生に修得させるとともに、意欲ある学生に対して自らの専門分野への応用力および実践力を修得させることにある。

構成メンバー

荒平 高章 准教授

秋吉 浩志 准教授

宮崎 武 講師

ディンダ プラマンタ 助教

中島 直樹 助教

幸野 憲道 教務課長

取り組み内容

令和6年度の当該委員会の活動は以下の通りである。

- 1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの啓発活動
- 2) 令和6年度前期・後期での KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者の認定および修了証授与
- 3) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者に対するアンケートの実施

1)に関しては、令和6年度前期在学生オリエンテーション（2，3，4年生対象）および新入生オリエンテーション、令和6年度後期在学生オリエンテーション（1，2，3，4年生対象）において学生に対して周知徹底を行ったほか、履修モデル等を印刷したプリント等を配布した。特に、令和6年度後期から、成績表に新たにリテラシーレベル・応用基礎レベルに必要な科目と単位数を記載した別紙を配布し、学生へ周知を行った。

2) に関しては、半期ごとに当該委員会でリテラシーレベル・応用基礎レベル双方の認定に係る判定会議を実施し、修了者の判定および修了証の授与を実施した。

前期については、応用基礎レベル2名、リテラシーレベル17名、後期は応用基礎レベル3名、リテラシーレベル10名が修了認定を受けた。

1), 2)を受けた分析結果

下表に令和4年度から令和6年度のリテラシーレベルと応用基礎レベルの修了者の内訳

を示す。学年ごとの学生数に依存するが、傾向としてはリテラシーレベルは前期に修了する学生が多く、応用基礎は後期に修了する学生が多いという傾向は変わらない。したがって、次年度以降の本プログラムの啓発活動に関しても、学生の履修傾向を把握した効果的な周知活動を実施する必要がある。

令和4年度				令和5年度				令和6年度			
前期		後期		前期		後期		前期		後期	
リ	応	リ	応	リ	応	リ	応	リ	応	リ	応
32	4	9	6	26	1	7	4	17	2	10	3

3) に関しては、修了証を授与する際、Google Forms にて作成された修了者アンケートの QR コードを配布し、リテラシーレベル・応用基礎レベルそれぞれについて回答を求めた。

自己評価

令和6年度は応用基礎レベル5名、リテラシーレベル26名の修了者が出た。これは前年度に比べわずかに減少しているが、次年度は修了者数の増加を目指し、継続的な周知徹底を行う。特に、本学の応用基礎レベルは修了要件に要する科目数が多いため、ハードルは高いが、データサイエンスのエキスパートとして必要な知識・技術の習得に役立つことは間違いのない。したがって、今後も引き続き、応用基礎レベルの修了者を増やすために委員メンバーと教務課と連携し、普及活動をしていきたい。

改善・向上方策（将来計画）

前年度の将来計画と同様にリテラシーレベルの全学生修了を目標とし、応用基礎レベルの修得を目指す学生を増やすことが必要である。そのためには、修了者の卒業後の動向などの調査をはじめ、修了者に対する本学教育プログラムに関する調査を継続する。

また、令和7年度の当該委員会の活動計画は以下の通りである。

- 1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの啓発活動
- 2) 文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベルプラス）」認定に係る申請
- 3) 令和7年度前期・後期での KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者の認定および修了証授与
- 4) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者に対するアンケートの実施
- 1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者の卒業後の追跡調査の実施